

長崎市内で学ぶ 近代産業の歴史に今の礎を探る

修学旅行 3日目 軍艦島・長崎市内研修編

▶軍艦島の風景に湧く本校生たち



▲軍艦島。年々崩壊が進んでいるという。

修学旅行3日目の午後は1、3、4、8組は軍艦島クルーズを行った。今は誰も住んでいないが近代産業が興隆した時期には炭鉱労働者やその家族たち、そしてそこで生活する人々を支える

修学旅行3日目の2日は午後からまた軍艦島クルーズと長崎市内別自主研修の二手に別れてそれぞれ近代産業を築いてきた長崎の歴史に思いを馳せた。

速報新聞

キマグレ

発行所
彦根東高等学校
新聞部
彦根市金亀町4番7号

人が住んでいた。わずか0.063km²の島に人口が最盛期の1959年には5259人もの人々が暮らしていたという。1、3、4、8組が航行したときは波が荒く上陸することはできなかったが、眼前に臨む軍艦島の迫力に本校生たちは圧倒された。2、5、6、7組は長崎市内自主研修を行い、グラバー園や大浦天主堂、出島など、海外との交流が早くから行われていた長崎独特の歴史を肌で感じた。どちらの班でも生徒たちは歴史的な街並みや世界遺産の



▶グラバー邸とグラバー園の上から手を振る本校生



▲大浦天主堂に向う本校生



▲学年レクでライトを振ってはしゃぐ生徒



▲市内を散策してご当地グルメやお土産ものを物色した。

どの貴重な建物などから、今の日本の礎となった過去の日本の歴史に思いを馳せた。夜はにっしょうかん梅松鶴というホテルに移動した。昨年11月に新世界三大夜景に選ばれた稲佐山の夜景は圧巻。さらに生徒たちは夕食後の学年レクリエーションで大いに盛り上がった。